



TITLE:

會報 (流星課觀測研究號)

AUTHOR(S):

CITATION:

會報 (流星課觀測研究號). 天界 1933, 13(148): 324-324

ISSUE DATE:

1933-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162384>

RIGHT:

ブラジル支部通信

昭和八年五月九日

東亞天文協會ブラジル支部 神 屋 信 一

謹啓(省略)

○大窪君と勝浦君がスケッチを始めてから六月末で満一ケ年になります。農事が多忙でありますため夕方やつと仕事を終へて家畜に飼料をやり夕食をすますと入浴もする暇なく観測をはじめなのです。入浴は午後の十時より早いことはありません。それにこれからの寒さは零度以下にさへなるのですから農園からかへつたまゝ裸足でやる観測はなみだいていではありませんよく一年間續いたごとと存じます。しかし兩君は黃道光や光帯や對日照はにもののであるかわかるまでは續けるといつて元氣にやつて居ります。御安心下さい。

○何れ來月末満一ケ年の總勘定を兩君ともやるはずであります。兎も角光帯が一年中あるものだといふことにはなりさうです。光帯といふものは地球をとりまいて永久にあるものだといふことになるのだとおもひます。さうして最初にも申し上げた様に光帯は黃道光とは別のものの様な感じが致します。

○黃道光は太陽の周圍にあらはれる現象で例へば太陽の周圍にレンズ形に集つた流星團の現象と見ますならこの現象と、別な光帯といふもの現象が重なり合つたものが一般に観測されて居る黃道光ではありますまいか。

○さうして黃道光の頂點の部分の南偏したり北偏する部分は光帯に屬するものではないでせうか。

○光帯のスケッチに南偏するものと北偏するものとありまして例ば、

八月十一日光帯第四號のスケッチは南偏

八月十九日黃道光第八十五號のスケッチは北偏 } 勝浦君觀測

等でありまして尤昨年スケッチは極めて下手なので正確には計れませんが星の位置との關係ははつきりしてゐますから間違はなからうとおもひます。

○この南偏北偏の時の月の位置を見ますと南偏の時は月も南にあり北偏の時は月も北にあるやうで月の位置によつてその偏度にも多少がある様であります。昨年のスケッチはわるい爲めと今年の年鑑がありませんため關係をよく見ることが出来ませんが御送りしました報告によつて特に御注意願ひ度存じます。以上

會 報

○六月例会——去る六月十八日午後三時、花山天文臺にて例会講演會を開催、當日柴田理學士の「星の構造」につき約二時間に涉つて講演あり、相當興味深い問題であつたので熱心な聴講者を満足せしめた。

編輯後記——猛熱酷暑、レコード破りの今年の暑さにはもう形容の辭がぬ、望遠鏡のレンズが溶けそう。然し流石海拔 220 米の花山天文臺は涼しい日影斜めにさす頃の冷涼さは下界では味へない樂天地。訪ぬる者は蓋し絶讃の言葉も忘れるであらう。——本月號は各方面の熱心な執筆者の方々の御盡力により珍しく堅實な内容を盛る事が出来た。言ふまでもなく「流星課の紹介、観測、研究」の特輯號である。小槇孝二郎氏は観測部流星課長として多年観測者の指導統制に研鑽の勞をとられてゐる本邦流星界の開拓者であり、観測界の重鎮である。

同氏の二題目の記事中前者は流星課観測史として貴重なものであり、後者は流星観測家にとつての有益なる無二の必携書である。又下保茂氏の論文は流星に關する最近の問題として、廣く讀者の多大の興味を惹くであらう。兩者何れも特輯號として大光彩を添へられた事に對し多忙中兩氏に深謝の意を表する次第、又一方柴田淑次氏の記事により彗星界の現状を遂一報導されてゐる。——若き會員並びに観測者等よ、天文學の興味は實地観測により生ずる事を了解されよ。げに星の光の輝きこそ優柔不斷の魅力を放つものである事を。——

新しく「思索と方便」欄が設けられた。研究と創造への自由な開放である。廣く讀者の投稿を歓迎する。(一編譯子)